

A close-up photograph of a child's face in profile, looking towards the right. The child's eyes are wide and focused on a bright yellow flower in the foreground. The background is a soft, out-of-focus green, suggesting an outdoor setting.

••• 第94期 中間事業報告書
(2005年4月1日~2005年9月30日)

参天製薬株式会社

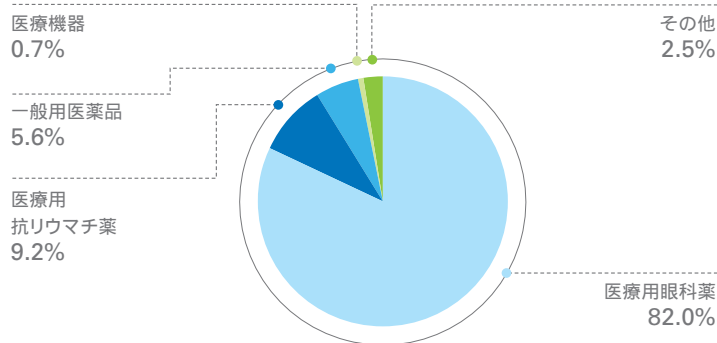
●●● プロフィール

参天製薬は、眼科とリウマチ・骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目からだの健康維持・増進に貢献しています。売上高の約80%を占める医療用眼科薬では、あらゆる眼科疾患に対する優れた医薬品の創製と医療現場のニーズに即した情報提供に取り組み、国内No.1の地位を獲得しています。すでに日米欧の3極で臨床開発・販売体制を構築し、卓越した研究開発力に根ざした独自性ある製品を世界に供給する「世界で存在意義のある企業」となることを目標にしています。

参天製薬は、社名の由来でもある「天機に参与する」*という基本理念に基づき、目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それにより参天製薬ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たしてまいります。

* 中国の古典『四書五経』を原典としており、聖人が、「天」すなわち万物の秩序・原理と、「地」すなわち人間社会の調和を助けることを意味しています。

●●● 事業分野別売上高比率 2005年9月中間期連結売上高：497億85百万円



目次

| | |
|----------------------|----|
| 連結財務ハイライト | 1 |
| 株主の皆さまへ | 2 |
| 中間連結業績レポート | 4 |
| 研究開発力の強化 | 6 |
| 健康コラム | 8 |
| トピックス | 9 |
| 中間連結財務諸表 | 10 |
| 中間連結貸借対照表 | 10 |
| 中間連結損益計算書・中間連結剰余金計算書 | 11 |
| 中間連結キャッシュ・フロー計算書 | 12 |
| 中間単体財務諸表 | 13 |
| 中間貸借対照表 | 13 |
| 中間損益計算書 | 14 |
| 会社概要 | 15 |
| 株式情報 | 16 |
| 株主メモ | 17 |

見通しに関する注意事項

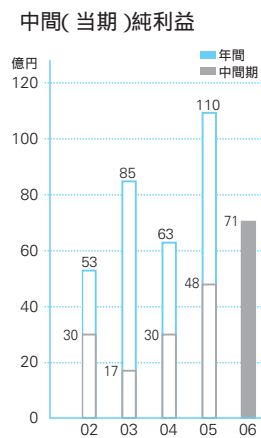
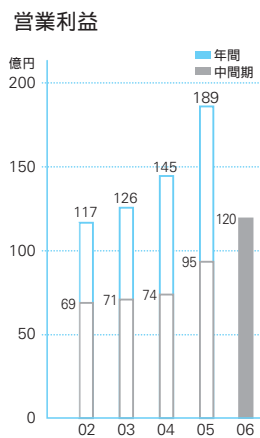
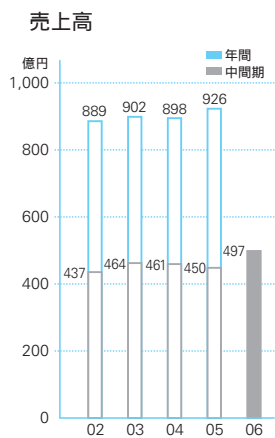
この中間事業報告書は、参天製薬の戦略・計画・業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向などさまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

財務数値、グラフに関する注意事項

この中間事業報告書に記載している金額は、億円未満または百万円未満を切り捨てて表示しています。パーセント表示は小数点以下2位を四捨五入しています。グラフの年表示は、3月31日に終了した会計年度を示しています。

●●● 連結財務ハイライト

| | 単位：百万円 | | 増減率 | 単位：百万円 |
|-------------|------------|------------|-----------|----------|
| | 2005年9月中間期 | 2004年9月中間期 | 2005/2004 | 2005年3月期 |
| 会計年度： | | | | |
| 売上高 | 49,785 | 45,084 | 10.4% | 92,696 |
| 営業利益 | 12,081 | 9,539 | 26.7 | 18,982 |
| 経常利益 | 12,302 | 9,532 | 29.1 | 18,837 |
| 中間(当期)純利益 | 7,100 | 4,878 | 45.6 | 11,022 |
| 研究開発費 | 5,971 | 5,868 | 1.7 | 12,619 |
| 設備投資額 | 753 | 1,085 | 30.6 | 1,674 |
| 減価償却費 | 1,642 | 1,813 | 9.4 | 3,696 |
| 1株当たり情報(円)： | | | | |
| 中間(当期)純利益 | 81.96 | 55.47 | 47.8% | 125.85 |
| 配当金 | 25.00 | 20.00 | — | 50.00 |
| 会計年度末： | | | | |
| 総資産 | 145,563 | 147,148 | 1.1% | 139,979 |
| 株主資本 | 113,576 | 105,347 | 7.8 | 108,239 |
| 従業員数(人) | 2,356 | 2,359 | — | 2,308 |





代表取締役社長
森田 隆和

ここに94期中間期事業報告書をお届けするにあたり、初めに皆さまのご健康を願うとともに、日頃のご支援に深く感謝いたします。今期は「2003-2005中期経営計画」の最終年度です。参天製薬は、皆さまのご期待に応えるべく全社一丸となり、同中期計画で掲げた 収益力の回復 研究開発力の強化 組織力の強化を基本方針として、それぞれの重点課題に取り組み、着実な成果を挙げています。

中間期の業績

当中間期の国内医療用眼科薬市場は、受診数が増加傾向にあることや、前期末から続いた花粉飛散量の増加による抗アレルギー剤市場の拡大などにより、前中間期に比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、欧米、アジアとともに総じて堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、アレルギー用目薬に加え、爽快用、コンタクト用目薬の伸長もあり、前中間期と比べ拡大しました。

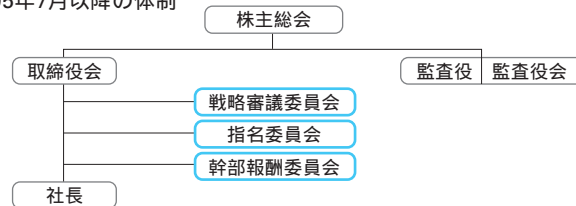
こうした市場環境の中、当中間期の売上高は、前中間期比10.4%増の497億85百万円となりました。営業利益は、同26.7%増の120億81百万円、経常利益は同29.1%増の123億2百万円となり、中間純利益は同45.6%増の71億円を計上することができました。

中間配当金は1株当たり25円とさせていただきます。当社は、今後も配当による株主還元を重視し、配当水準の維持・向上に努めてまいります。

コーポレートガバナンスの充実・強化にむけて

当社は、企業価値の最大化にはコーポレートガバナンス(企業統治)の充実・強化が不可欠であると考えます。当中間期においては、6月開催の当社定時株主総会での承認を経て、社内取締役1名、社外取締役2名を増員し、取締役会を強化いたしました。さらに7月からは社内取締役、社外取締役で構成する「戦略審議委員会(再編)」、「指名委員会(新設)」、「幹部報酬委員会(継続)」の3委員会を設置しております。

2005年7月以降の体制



これらの委員会は委員会等設置会社における委員会とは異なります。

戦略審議委員会は、事業戦略など重要な戦略課題について審議します。指名委員会では、取締役の選任基準を決め、決定プロセスを明確にし、それに従い審議した内容を取締役に提案します。幹部報酬委員会は、幹部報酬方針・幹部報酬制度の立案・改正、報酬決定について審議します。

研究開発での成果

中長期的な成長の源泉である研究開発では、重点新薬候補の緑内障治療剤 2 品目、ドライアイ治療剤 1 品目、抗リウマチ薬 1 品目は、いずれも順調に臨床試験が進んでおります。その中の糖尿病黄斑浮腫と抗リウマチ薬の TNF 阻害剤 DE-096 は日本で臨床第 Ⅲ 相試験を開始しました。また、提携案件としては、三共株式会社が糖尿病治療薬として開発中の CS - 011 (リボグリタゾン) について、ドライアイを主とした角結膜上皮障害治療剤としての適用を目指し、全世界での独占の開発、製造および販売に関する契約を 2005 年 9 月に締結しました。さらに 10 月には、春季カタル治療剤「パピロックミニ点眼液 0.1% (一般名: シクロスポリン点眼液)」の製造販売承認を取得しました。

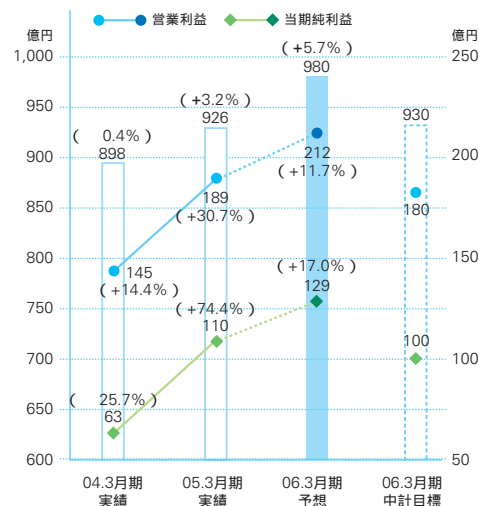
三共株式会社は日本国内における共同販売権を留保します。

通期の見通し

国内医療用眼科薬市場では、合成抗菌点眼剤市場の競争激化や抗アレルギー点眼剤市場の縮小の影響が予想されますが、緑内障・高眼圧治療剤「レスキュラ点眼液」の貢献、角膜炎治療剤「ヒアレイン」などの売上増加を見込み、通期売上高は前期を上回ると予想しています。一方海外において、米国の売上高は前期を下回るものの、欧州、アジアの売上高は、着実な製品の市場浸透により前期と比べ増加すると見込んでいます。一般用医薬品部門では、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬を中心に引き続き販売促進を行います。アレルギー用目薬の減少もあり、売上高は前期と比べほぼ横ばいを予想しています。その結果、「2003-2005 中期経営計画」の目標を上回り、売上高 980 億円、営業利益 212 億円、経常利益 215 億円、当期純利益 129 億円を予想しております。

2003-2005 中期経営計画

業績推移:実績と予想



当社は、従来からの強みである販売・マーケティング力のさらなる向上に加え、全業務の効率化を引き続き進めつつ、眼科およびリウマチ / 骨・関節疾患分野における「製品開発力を成長の源泉とする会社」への進化を加速してまいります。

経営陣を代表して、皆さまの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年11月

代表取締役社長

森田隆和

●●● 中間連結業績レポート

事業分野別売上高の状況

医療用医薬品

当中間期の医療用医薬品の売上高は、前中間期比12.2%増の455億6千1百万円となりました。

国内の眼科薬事業は当中間期も引き続き重点・成長領域(角結膜疾患、緑内障、アレルギー)に経営資源を集中し、医療現場の潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を行い、当社製品のさらなる市場浸透に注力しました。その結果、国内眼科薬の売上高は前中間期比10.0%増の359億6千6百万円となりました。合成抗菌点眼剤領域では競合品の影響などにより、「クラビット点眼液」、「タリビット点眼液」両剤合わせた売上高は、前中間期比3.5%減の86億7千6百万円となりました。角膜疾患治療剤領域では、ドライアイ(眼球乾燥症候群)などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン」が、患者さんのQOL(Quality of Life:生活の質)を高める製品特性と、医療現場でのドライアイの啓発活動などにより、前中間期比9.9%増の77億9千7百万円となりました。緑内障治療剤領域では、2004年10月から販売開始した「レスキュラ点眼液」の貢献により、「デタントール点眼液」、「チモプトールXE」ならびに「チモプトール」と合わせた四剤の売上高は、前中間期比56.2%増の74億9千1百万円となりました。

た。抗アレルギー点眼剤領域では、前期末から続いた花粉飛散量の増加による抗アレルギー剤市場の拡大により、「リボスチン点眼液」の売上高が前中間期比3.8%増の14億7千8百万円となりました。

海外における売上高は、円換算ベースで前中間期比37.3%増の48億6千6百万円となりました。米国市場において合成抗菌点眼剤領域で競争が激化していますが、前中間期の流通在庫の調整の影響がなくなり、売上高は伸長しました。欧州では、現地子会社が販売拡大に努め、北欧・東欧・ロシア・ドイツで売上を順調に伸ばしました。アジアにおいては、学術情報の提供やマーケティング活動の強化を図り、主要市場である中国および韓国で売上を伸ばしました。

リウマチ/骨・関節疾患領域では、疾患修飾性抗リウマチ薬市場が前中間期と比べ拡大しました。「リマシル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに2004年7月に発売しました「メトレート錠」が、市場へ着実に浸透し、抗リウマチ薬の売上高は、前中間期比8.9%増の45億8千8百万円となりました。

一般用医薬品

一般用医薬品部門は、目の疲れ・かすみ・爽快用の目薬を中心に引き続き販売促進に注力した結果、売上高は前中間期比7.1%増の27億7千7百万円となりました。

事業分野別売上高

単位：百万円

| | 国内 | | 海外 | | 合計 | |
|---------------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
| | 金額 | 対前期増減率 | 金額 | 対前期増減率 | 金額 | 対前期増減率 |
| 医療用医薬品 | 40,584 | 9.8% | 4,977 | 36.9% | 45,561 | 12.2% |
| うち眼科薬 | 35,966 | 10.0 | 4,866 | 37.3 | 40,832 | 12.7 |
| うち抗リウマチ薬 | 4,501 | 8.5 | 86 | 33.1 | 4,588 | 8.9 |
| うちその他医薬品 | 116 | 7.8 | 24 | 7.4 | 141 | 7.8 |
| 一般用医薬品 | 2,766 | 7.1 | 10 | 11.7 | 2,777 | 7.1 |
| 医療機器 | 322 | 22.4 | 9 | 51.9 | 332 | 23.7 |
| その他 | 360 | 14.0 | 753 | 33.7 | 1,114 | 23.3 |
| 合計 | 44,034 | 9.3 | 5,751 | 19.7 | 49,785 | 10.4 |



医療機器

当中間期の国内の白内障手術件数は若干増加しましたが、競争の激化に伴い眼内レンズの売上高は横ばいで推移しました。2004年12月末をもって手術用鋼製小物の販売を終了した影響もあり、売上高は前中間期比23.7%減の3億3千2百万円となりました。

その他

米国、欧州の受託製造の減少により、前中間期比23.3%減の11億1千4百万円となりました。

利益の状況

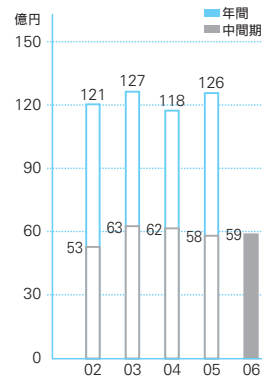
営業利益は、販売費及び一般管理費の増加はありましたが、国内医療用医薬品の売上増加、売上原価率の低減などにより、前中間期比26.7%増の120億8千1百万円となりました。売上高営業利益率は前中間期の21.2%から24.3%へ上昇しました。営業外収益は、前中間期比7.9%減の4億4千万円となりました。営業外費用は、支払利息や為替差損の減少などを反映して、前中間期比54.8%減の2億1千9百万円となりました。この結果、経常利益は前中間期比29.1%増の123億2百万円となりました。

特別利益は、1千3百万円となりました。一方、2006年5月開始予定の物流業務のアウトソーシングに伴う、物流業務用の土地・建物の減損処理、ならびに参天物流株式会社の従業員の退職特別加算金を計上したことにより、特別損失は10億8千4百万円となりました。

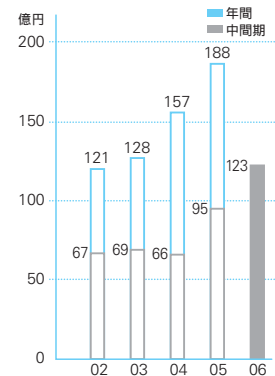
法人税等は、41億3千1百万円となりました。税金等調整前中間純利益に対する比率(実効税率)は、海外子会社の損益の好転により前中間期の41.3%から36.8%になりました。

これらの結果、中間純利益は前中間期比45.6%増の71億円となりました。

研究開発費



経常利益



設備投資

設備投資につきましては、既存製造設備の改造、ならびに研究開発用機器の更新などを実施しました。当中間期の設備投資額はリース契約分を含め7億5千3百万円となりました。

その他

2005年9月に中国江蘇省蘇州市に、100%単独出資による現地法人「参天製薬(中国)有限公司」を設立しました。今後は医療用眼科薬の開発、工場新設ならびに、自社販売網の構築を行い当社製品と参天ブランドの更なる浸透を目指します。

同じく2005年9月に、薬粧事業部(国内一般用医薬品の販売部門)において、機構改革を実施しました。薬粧事業部の企画・提案力強化のため、本部組織として「薬粧企画室」「製品企画室」「営業企画室」を新たに設置するとともに、一般用目薬の国内最大市場である東京に本部組織を移しました。営業効率の向上に加え、本部組織と営業組織の事業部内連携強化・コミュニケーションの円滑化など、効率的かつ高付加価値提案のできる営業体制へシフトしました。

●●● 研究開発力の強化



医療上の未充足ニーズを満たし、患者さんのQOL(Quality of Life :生活の質)向上に貢献する薬剤・サービスを継続的に提供していきます。

当社は、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科およびリウマチ / 骨・関節疾患分野での積極的な臨床開発を進めています。最終年度を迎えた「2003 - 2005 中期経営計画」では、三つの基本方針の一つとして「研究開発力の強化」を掲げ、重点課題である「新製品開発のスピードアップ」「経営資源の重点的配分による新薬候補化合物の充実」に取り組んできました。そのなかで、継続的に新製品を上市するために、臨床試験の後期第 相以降に 3 つのプロジェクトが存在するという目標については、前年度に 1 年前倒して達成しています。

現在進行中の主要臨床プロジェクトでは、高齢化による患者数増加が見込まれる緑内障領域において、DE-085(一般名: タフルプロスト)が日本および欧米で臨床第 相試験を実施しております。また同じ緑内障治療剤である DE-092(同: オルメサルタン)は、日本および欧米で臨床後期第 相試験を実施中です。角膜、炎症領域では、ドライアイを含む角結膜創傷治療剤 DE-089(同: ジカフォソル・テトラナトリウム)が日本で臨床後期第 相試験を行っております。さらに、TNF 阻害剤 DE-096(一般名未定)については、抗リウマチ薬に加え、網膜疾患治療剤(糖

尿病黄斑浮腫)としての適応拡大を目指し、臨床前期第 相試験を開始しました。

それ以外にも、緑内障治療剤 DE-090(同: 塩酸ロメリジン)は、日本で臨床前期第 相試験の段階にあり、角膜、炎症領域の DE-090(同: ゲファルナート)は日本で臨床第 相試験を実施中です。

今後の臨床入り候補プロジェクトとしては、角膜・緑内障・網膜・リウマチの各領域において前臨床試験が進行中で、2006 年から 2007 年までの間に臨床開始が予定されています。



主要な医薬品開発状況

2005年10月現在

| 一般名 | 開発コード | 適応症 | 地域 | フェーズ | フェーズ | フェーズ | 申請 | 承認 | 特徴 |
|---------------------|--------|-------------------|----------|------|------|------|----|----|---|
| シクロスポリン | DE-076 | 春季カタル | 日本 | | | | | ● | オーファンドラッグ*。従来の抗アレルギー剤では効果が不十分な中等度以上の春季カタルに対する効果が期待される。2005年10月承認。 |
| タフルプロスト | DE-085 | 緑内障・高眼圧症 | 日本 欧米 | | | ● | | ● | プロスタグランジン(PG)系緑内障治療剤。他のPG製剤よりも強い眼圧下降作用が期待される。室温保存が可能。 |
| オルメサルタン | DE-092 | 緑内障・高眼圧症 | 日本 欧米 | | ● | ● | | | アンジオテンシン 受容体拮抗作用を持つ緑内障・高眼圧症治療剤として、唯一本格開発段階にある薬剤。PG製剤に匹敵する強力な眼圧下降作用が期待される。 |
| 塩酸ロメリジン | DE-090 | 緑内障 | 日本 | | ● | | | | 視野欠損の進行抑制作用を持つ。臨床開発段階にある唯一のカルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障治療剤。 |
| ジカフォソル・テトラナトリウム | DE-089 | 角結膜創傷治療剤(ドライアイ含む) | 日本 | | ● | | | | 角結膜上皮から涙液構成成分や水分の分泌を促すドライアイ治療剤。 |
| レボフロキサシン + プレドニゾン A | DE-094 | 感染による角膜炎 | 米国 | | ● | | | | レボフロキサシンとステロイドの合剤。 |
| (未定) | DE-096 | 関節リウマチ 糖尿病黄斑浮腫 | 日本 | | ● | ● | | | TNF 阻害剤。経口にて生物製剤に匹敵する抗リウマチ効果を基礎研究で確認。関節リウマチに加え、新たに糖尿病黄斑浮腫への効果も基礎研究で確認され、両疾患を対象とした開発を実施。 |
| ゲファルナート | DE-099 | 角結膜創傷治療剤(ドライアイ含む) | 日本 | ● | | | | | 眼表面ムチン分泌促進作用および角膜上皮伸展促進作用により、主にドライアイを伴う角結膜上皮障害を改善する。既存薬との併用が可能である防腐剤フリーの眼軟膏。 |

新薬の候補化合物は、非臨床試験で安全性・有効性が確認された後、以下の試験を行います。フェーズ Ⅰ 終了後、厚生労働省に製造販売承認を申請し、審査を通過したものは製造販売承認を受け、発売することができます。

フェーズ Ⅰ (臨床第 Ⅰ 相試験): 少数の健康人志願者を対象に安全性を確認する試験

フェーズ Ⅱ (臨床第 Ⅱ 相試験): 少数の患者さんを対象に投与量や投与方法を確認する試験

フェーズ Ⅲ (臨床第 Ⅲ 相試験): 多数の患者さんを対象に既存薬やプラセボ(偽薬)と比較して安全性・有効性を確認する試験

* オーファンドラッグ: 医療上の必要性が高いにもかかわらず、患者数が少ないことなどから採算が見込めない医薬品。研究開発には公的援助制度が適用される。

紙上ドライアイチェック

乾くことより、傷がこわい。
ドライアイを軽く見ないで。



ドライアイは目が乾くだけではなく、進行すると目を傷つけることもある病気。
少しでも気になる方は、早めに専門医に相談することが大切です。
単なる疲れ目と決めつけず、まずはドライアイチェックをしてみましょう。

| | | |
|----------------|-----|----|
| ・ 目が乾いた感じがする | Yes | No |
| ・ 目が疲れやすい | Yes | No |
| ・ 何となく目に不快感がある | Yes | No |
| ・ 光をまぶしく感じやすい | Yes | No |
| ・ めやにが出る | Yes | No |
| ・ ものがかすんで見える | Yes | No |
| ・ 目がかゆい | Yes | No |
| ・ 目がごろごろする | Yes | No |
| ・ 目が赤くなりやすい | Yes | No |
| ・ 目が痛い | Yes | No |
| ・ 目が重たい感じがする | Yes | No |
| ・ 理由もなく涙が出る | Yes | No |

当ドライアイチェックでの結果は、医療的な確定診断ではありません。
ドライアイの診断、治療については必ず医師の診察を受けてその指示に従ってください。

5つ以上がYesの方は、ドライアイの可能性が 있습니다。
早めに専門医にご相談ください。

ドライアイチェックについてもっとくわしく知りたい方は、
HELP! ドライアイネットワーク

<http://www.help-dryeye.com/>

トピックス

「クラビット点眼液」と「ヒアレイン」がロングセラーに

当社は、合成抗菌点眼剤領域において「タリビッド点眼液」ならびに「クラビット点眼液」で約80%のシェアを長年維持しています。また、角膜疾患治療剤領域では、「ヒアレイン」が約80%のシェアをもって市場を牽引しています。

今年、「クラビット点眼液」と「ヒアレイン」がそれぞれ販売5周年と10周年を迎え、両領域で長期間トップブランドとして治療に貢献していることが実証されました。これを記念して、7月

には「クラビット点眼液 5周年記念眼感染症学術講演会」を大阪で開催しました。続く8月には、名古屋にて「眼科アップデート 愛知～角膜～」を開催し、これらの領域における専門の先生方にご登壇いただき、医療現場で抱える診療・治療課題への取り組みを促進する質の高い学術情報講演会となりました。



中国市場で本格的な事業展開

当社は、将来の成長に向けて中国市場での本格的な事業展開を開始しました。中国の医療用眼科薬市場は、人口の絶対数および今後の経済成長から、中長期的に成長が期待される有望な市場です。当社はこれまで16年間、日本から製品を輸出し、現地代理店が販売する体制で売上を拡大してきましたが、当社が持つ高品質の医療用眼科薬が受け入れられる土壌が益々高まってきていることから、現地生産および自社販売体制への切り替えで、より一層収益を高めていきます。

その一環として、今年7月には上海事務所を開設し、上海を中心とする華東地区での体制を強化しました。また9月には、医療用眼科薬の臨床試験を含む開発、生産および自社販売体制を確立するために、100%単独出資による現地法人「参天製薬(中国)有限公司」を中国沿岸部の中央に位置する江蘇省蘇州市に設立しました。

新会社は、2009年1月に従業員200名体制で操業を開始し、合成抗菌点眼剤「クラビット点眼液」や角膜疾患治療剤「ヒ

アレイン」などを生産する予定です。生産能力は現在の輸出量である1千万本の2倍の2千万本を計画しています。

当社は、1996年に北京事務所、2000年には広州事務所を開設し、現地医療機関への医薬学術情報の提供、臨床現場ニーズの収集そして現地販売代理店の支援・強化を進めてきており、ターゲットとする大病院向け医療用眼科薬市場では推定約25%のトップシェアを維持しています。

当社は、今後も成長著しい中国市場での当社製品および参天ブランドの浸透と売り上げ拡大に努めてまいります。



上海事務所スタッフ

●●● 中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

| | 単位：百万円 | | |
|---------------|------------|----------|------------|
| | 2005年9月中間期 | 2005年3月期 | 2004年9月中間期 |
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | 89,348 | 82,735 | 89,905 |
| ① 現金及び預金 | 30,221 | 23,948 | 33,068 |
| 受取手形及び売掛金 | 35,371 | 35,625 | 33,440 |
| ② 有価証券 | 10,388 | 9,046 | 9,309 |
| たな卸資産 | 9,293 | 9,826 | 9,167 |
| その他 | 4,073 | 4,287 | 4,920 |
| 固定資産 | 56,214 | 57,244 | 57,242 |
| ③ 有形固定資産 | 31,179 | 32,676 | 35,653 |
| 建物及び構築物 | 17,782 | 18,826 | 19,809 |
| 土地 | 9,062 | 9,486 | 9,893 |
| その他 | 4,333 | 4,363 | 5,950 |
| 無形固定資産 | 2,959 | 3,318 | 3,461 |
| 投資その他の資産 | 22,075 | 21,250 | 18,126 |
| ④ 投資有価証券 | 15,737 | 14,313 | 12,001 |
| その他 | 6,338 | 6,936 | 6,125 |
| 資産合計 | 145,563 | 139,979 | 147,148 |

主な増減ポイント

- ① 現金及び預金
中間純利益の増加によります。
- ② 有価証券
コマーシャルペーパー 1,000 百万円の購入によります。
- ③ 有形固定資産
物流用不動産の減損損失 909 百万円を認識したことによります。
- ④ 投資有価証券
投資有価証券評価額の増加によります。

| | 単位：百万円 | | |
|----------------|------------|----------|------------|
| | 2005年9月中間期 | 2005年3月期 | 2004年9月中間期 |
| (負債の部) | | | |
| 流動負債 | 23,205 | 22,221 | 22,014 |
| 支払手形及び買掛金 | 5,238 | 6,122 | 5,201 |
| 一年以内返済予定の長期借入金 | 768 | 268 | 416 |
| 未払金 | 8,715 | 8,577 | 8,756 |
| ① 未払法人税等 | 4,729 | 3,413 | 3,173 |
| その他 | 3,753 | 3,839 | 4,466 |
| 固定負債 | 8,781 | 9,518 | 19,785 |
| 長期借入金 | 5,980 | 6,614 | 12,062 |
| 退職給付引当金 | 2,216 | 1,857 | 6,097 |
| その他 | 584 | 1,046 | 1,626 |
| 負債合計 | 31,986 | 31,740 | 41,800 |
| (資本の部) | | | |
| 資本金 | 6,272 | 6,247 | 6,227 |
| 資本剰余金 | 6,967 | 6,942 | 6,922 |
| 利益剰余金 | 100,378 | 95,901 | 94,063 |
| その他有価証券評価差額金 | 2,922 | 2,048 | 1,256 |
| 為替換算調整勘定 | 2,883 | 2,826 | 3,078 |
| 自己株式 | 79 | 74 | 44 |
| 資本合計 | 113,576 | 108,239 | 105,347 |
| 負債資本合計 | 145,563 | 139,979 | 147,148 |

主な増減ポイント

- ① 未払法人税等
税金等調整前中間純利益の増加に伴う税金計上額増によります。

(注)増減ポイントは、前期末(2005年3月31日)との比較です。

中間連結損益計算書

単位：百万円

| | 2005年9月中間期 | 2004年9月中間期 | 増減額 |
|--------------|------------|------------|-------|
| ① 売上高 | 49,785 | 45,084 | 4,701 |
| ② 売上原価 | 17,449 | 16,327 | 1,122 |
| 売上総利益 | 32,336 | 28,757 | 3,579 |
| ③ 販売費及び一般管理費 | 20,254 | 19,217 | 1,037 |
| 営業利益 | 12,081 | 9,539 | 2,542 |
| 営業外収益 | 440 | 478 | 38 |
| 営業外費用 | 219 | 484 | 265 |
| 経常利益 | 12,302 | 9,532 | 2,770 |
| 特別利益 | 13 | 345 | 332 |
| ④ 特別損失 | 1,084 | 1,561 | 477 |
| 税金等調整前中間純利益 | 11,232 | 8,316 | 2,916 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4,620 | 3,088 | 1,532 |
| 法人税等調整額 | 489 | 350 | 839 |
| 中間純利益 | 7,100 | 4,878 | 2,222 |

中間連結剰余金計算書

単位：百万円

| | 2005年9月中間期 | 2004年9月中間期 | 増減額 |
|----------------------|------------|------------|-------|
| (資本剰余金の部) | | | |
| 資本剰余金期首残高 | 6,942 | 6,908 | 34 |
| 資本剰余金増加高 | 24 | 13 | 11 |
| 新株予約権の行使による 新株の発行 | 24 | 13 | 11 |
| 資本剰余金中間期末残高 | 6,967 | 6,922 | 45 |
| (利益剰余金の部) | | | |
| 利益剰余金期首残高 | 95,901 | 91,844 | 4,057 |
| 利益剰余金増加高 | 7,100 | 4,878 | 2,222 |
| 中間純利益 | 7,100 | 4,878 | 2,222 |
| 利益剰余金減少高 | 2,623 | 2,658 | 35 |
| 配当金 | 2,598 | 2,637 | 39 |
| 役員賞与 | 24 | 21 | 3 |
| 利益剰余金中間期末残高 | 100,378 | 94,063 | 6,315 |

主な増減ポイント

① 売上高

全体の売上高は、前中間期に比べ、10.4%の増収となりました。主力の医療用医薬品事業は、国内眼科薬では、合成抗菌点眼剤領域が競合品の影響により減収となりましたが、角膜疾患治療剤領域の順調な伸び、緑内障治療剤領域での導入品の貢献、前期末から続いた花粉飛散量の増加による抗アレルギー点眼剤領域の拡大により9.8%の増収となり、また、海外眼科薬も米国、欧州、アジアそれぞれで売上を伸ばし36.9%の増収を確保しました。抗リウマチ薬も、市場へ着実に浸透したことにより8.9%の増収となりました。

② 売上原価

売上高の増加に伴い6.9%の増加となりましたが、原価率は、製造数量の増加などによる低減要因があり、前中間期の36.2%から35.0%に改善しました。

③ 販売費及び一般管理費

積極的な医薬情報提供などの普及促進活動により、国内・欧州・アジアの販売費などが増加し、5.4%増となりました。

④ 特別損失

物流業務用土地・建物の減損損失909百万円、参天物流株式会社の従業員の退職特別加算金143百万円を計上しましたが、前年度計上の減損損失823百万円ならびに米国事業構造改善関係費547百万円がなくなったことにより、減少しました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

| | 2005年9月中間期 | 2004年9月中間期 | 増減額 |
|------------------------|------------|------------|-------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 11,101 | 3,637 | 7,464 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | 571 | 2,057 | 1,486 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | 2,684 | 2,821 | 137 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 22 | 43 | 21 |
| 現金及び現金同等物の 増加額又は減少額 | 7,867 | 1,197 | 9,064 |
| 現金及び現金同等物 の期首残高 | 32,380 | 41,422 | 9,042 |
| 現金及び現金同等物 の中間期末残高 | 40,248 | 40,225 | 23 |

● ● ● キャッシュ・フロー計算書 ● ● ●

キャッシュ・フロー計算書とは、当該会計期間における資金の流れ(キャッシュ・フロー)を、「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3つに区分し、それぞれの活動によりどれだけの資金が増加・減少したかを示したものです。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」

製品の製造・販売、商品の仕入等、営業活動にかかるキャッシュ・フローを示しています。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」

固定資産の取得・売却、有価証券・投資有価証券の取得・売却等の投資活動にかかるキャッシュ・フローを示しています。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」

借入金の借入・返済、配当金の支払等の財務活動にかかるキャッシュ・フローを示しています。

そして、これらの活動により増加・減少した資金の総額は、「現金及び現金同等物」として、表示されています。

現金同等物とは、換金性があり、僅少なリスクしか負わない3か月以内の短期投資を意味します。当社では、貸借対照表上の「現金及び預金」「有価証券」と「流動資産その他」に計上されています。

●●● 中間単体財務諸表

中間貸借対照表

| | 単位：百万円 | | | | 単位：百万円 | | |
|---------------|------------|----------|------------|----------------|------------|----------|------------|
| | 2005年9月中間期 | 2005年3月期 | 2004年9月中間期 | | 2005年9月中間期 | 2005年3月期 | 2004年9月中間期 |
| (資産の部) | | | | (負債の部) | | | |
| 流動資産 | 84,704 | 78,075 | 84,763 | 流動負債 | 21,714 | 20,686 | 20,044 |
| 現金及び預金 | 28,259 | 21,924 | 31,413 | 買掛金 | 4,813 | 5,469 | 4,773 |
| 受取手形及び売掛金 | 34,098 | 34,572 | 31,990 | 一年以内返済予定の長期借入金 | 768 | 268 | 416 |
| 有価証券 | 10,388 | 9,046 | 9,309 | 未払金 | 8,649 | 8,732 | 8,935 |
| たな卸資産 | 7,822 | 8,328 | 7,699 | 未払法人税等 | 4,694 | 3,372 | 3,120 |
| その他 | 4,134 | 4,203 | 4,350 | その他 | 2,789 | 2,843 | 2,799 |
| 固定資産 | 63,976 | 64,687 | 64,547 | 固定負債 | 8,289 | 8,983 | 19,263 |
| 有形固定資産 | 27,135 | 28,459 | 31,363 | 長期借入金 | 5,980 | 6,614 | 12,062 |
| 建物及び構築物 | 15,493 | 16,483 | 17,461 | 退職給付引当金 | 2,036 | 1,823 | 6,067 |
| 土地 | 8,794 | 9,227 | 9,630 | その他 | 273 | 546 | 1,134 |
| その他 | 2,848 | 2,749 | 4,271 | 負債合計 | 30,003 | 29,670 | 39,308 |
| 無形固定資産 | 1,873 | 2,073 | 2,247 | (資本の部) | | | |
| 投資その他の資産 | 34,967 | 34,154 | 30,936 | 資本金 | 6,272 | 6,247 | 6,227 |
| 投資有価証券 | 15,733 | 14,309 | 11,997 | 資本剰余金 | 6,967 | 6,942 | 6,922 |
| その他 | 19,234 | 19,845 | 18,938 | 利益剰余金 | 102,595 | 97,927 | 95,640 |
| 資産合計 | 148,681 | 142,762 | 149,311 | 利益準備金 | 1,551 | 1,551 | 1,551 |
| | | | | 任意積立金 | 89,782 | 84,775 | 84,775 |
| | | | | 中間(当期)未処分利益 | 11,261 | 11,600 | 9,313 |
| | | | | その他有価証券評価差額金 | 2,922 | 2,048 | 1,256 |
| | | | | 自己株式 | 79 | 74 | 44 |
| | | | | 資本合計 | 118,677 | 113,092 | 110,002 |
| | | | | 負債資本合計 | 148,681 | 142,762 | 149,311 |

中間損益計算書

単位：百万円

| | 2005年9月中間期 | 2004年9月中間期 | 増減額 |
|--------------|------------|------------|-------|
| 売上高 | 46,234 | 41,897 | 4,337 |
| 売上原価 | 15,673 | 14,430 | 1,243 |
| 売上総利益 | 30,560 | 27,467 | 3,093 |
| 販売費及び一般管理費 | 18,587 | 17,690 | 897 |
| 営業利益 | 11,972 | 9,776 | 2,196 |
| 営業外収益 | 394 | 539 | 145 |
| 営業外費用 | 48 | 94 | 46 |
| 経常利益 | 12,318 | 10,221 | 2,097 |
| 特別利益 | 14 | 237 | 223 |
| 特別損失 | 940 | 1,006 | 66 |
| 税引前中間純利益 | 11,392 | 9,452 | 1,940 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4,604 | 3,058 | 1,546 |
| 法人税等調整額 | 503 | 386 | 889 |
| 中間純利益 | 7,291 | 6,008 | 1,283 |
| 前期繰越利益 | 3,970 | 3,305 | 665 |
| 中間未処分利益 | 11,261 | 9,313 | 1,948 |

● ● ● 会社概要 (2005年9月30日現在)

社 名： 参天製薬株式会社
本 社： 〒533-8651
大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号
TEL 06-6321-7007(IR 専用)
FAX 06-6321-8400

創 業： 1890年
設 立： 1925年
資 本 金： 6,272百万円
株 主 数： 8,386名
営業拠点： 仙台、東京、埼玉、名古屋、大阪、広島、福岡ほか
工 場： 能登、滋賀、大阪
研 究 所： 奈良研究開発センター
従業員数： 連結2,356名、単体1,730名

主要子会社

| | |
|---|--|
| 参天物流株式会社 事業内容：医薬品の保管・搬送 出資比率：100% 設立年月：1994年10月 | サンテン・オイ 事業内容：医薬品の臨床開発・製造・ 販売・受託製造 出資比率：100% 設立年月：1997年2月 |
| 株式会社クレール 事業内容：無塵・無菌服のクリーニング 出資比率：100% 設立年月：1997年4月 | サンテンファーマ・エービー 事業内容：医薬品の販売支援 出資比率：100% 設立年月：1997年9月 |
| サンテン・ホールディングス・ ユーエス・インク 事業内容：北米事業の持株会社 出資比率：100% 設立年月：2002年1月 | サンテン・ゲーエムペーハー 事業内容：医薬品の販売支援、事業開発 出資比率：100% 設立年月：1994年11月 |
| サンテン・インク 事業内容：医薬品の臨床開発・受託製造 出資比率：100%* 設立年月：1993年3月 | 台湾参天製薬股份有限公司 事業内容：医薬品の輸入・販売 出資比率：100% 設立年月：1992年7月 |
| アドバンスド・ビジョン・ サイエンス・インク 事業内容：医療機器の開発・製造・販売 出資比率：100%* 設立年月：2001年1月 | 韓国参天製薬株式会社 事業内容：医薬品の輸入・販売 出資比率：100% 設立年月：2000年7月 |

* サンテン・ホールディングス・ユーエス・インクを通じた間接出資

取締役、監査役および執行役員

取締役

森田 隆和
代表取締役社長

三田 昌宏
常務取締役
経営全般・薬制担当

和賀 克公
取締役
社会・環境担当

黒川 明
取締役
常務執行役員
医薬事業部長

男澤 一郎
取締役
常務執行役員
企画本部長
兼欧米事業担当
(業務本部管掌)

古川 公成
取締役
(大学教授)

村松 勲
取締役
(医療ビジネスコンサルタント)

古谷 昇
取締役
(経営コンサルタント)

監査役

坂本 秀士
常勤監査役

水本 幸儀
常勤監査役

堀 弘二
監査役
(弁護士)

加護野 忠男
監査役
(大学教授)

執行役員 (取締役による兼務を除く)

西畑 利明
常務執行役員
研究開発本部長
(品質保証・
環境監査本部管掌)

岩本 憲二
執行役員
アジア事業部長

佐藤 正道
執行役員
薬粧事業部長

エイドリアン・グレイブス
執行役員
サンテン・インク取締役社長

ユルキ・リリエロース
執行役員
サンテン・オイ 取締役社長

古門 貞利
執行役員
医薬事業部
医薬営業統括部長

森島 健司
執行役員
生産物流本部長

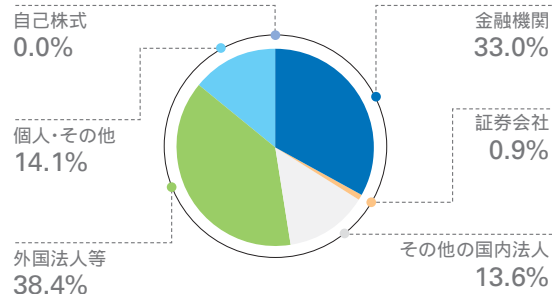
● ● ● 株式情報 (2005年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 151,493,354 株
 発行済株式の総数 86,696,003 株
 株主数 8,386 名

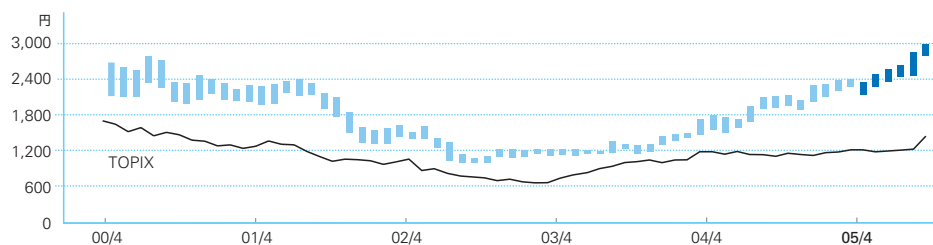
大株主の状況(上位10名)

| 株主名 | 所有株式数 | 出資比率 |
|--|----------|------|
| ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー サブアカウントアメリカンクライアント | 6,073 千株 | 7.0% |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 4,812 | 5.6 |
| 三田産業株式会社 | 4,756 | 5.5 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 3,881 | 4.5 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 2,668 | 3.1 |
| 日本生命保険相互会社 | 2,661 | 3.1 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 2,610 | 3.0 |
| ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リユーエスタックスエグゼンプテド ペンションファンズ | 2,591 | 3.0 |
| 株式会社UFJ銀行 | 2,148 | 2.5 |
| 株式会社東京三菱銀行 | 2,148 | 2.5 |

所有株式数別株主分布状況：

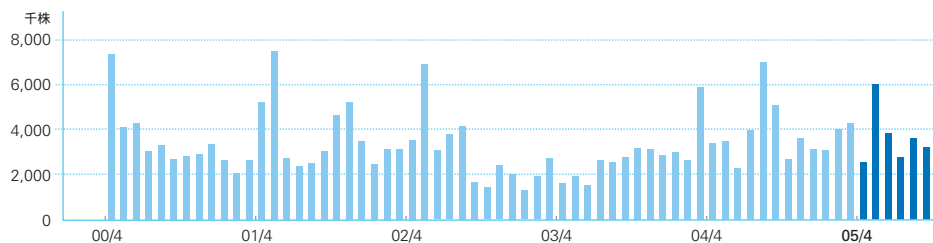


株価チャート(大阪証券取引所、月足ベース)



(注) 株価は、株式分割修正後の数値を示しています。
 TOPIX：東証株価指数

株式売買高(大阪証券取引所、月足ベース)



●●● 株主メモ

| | |
|--------------------------------|--|
| 決算期 | 3月31日 |
| 配当金 | 利益配当金受領株主確定日：3月31日 中間配当金受領株主確定日：9月30日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 1単元の株式の数 | 100株 |
| 公告掲載新聞 | 日本経済新聞 なお、決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書の内容を当社ホームページ (http://www.santen.co.jp)に掲載しています。 |
| 証券コード | 4536 |
| 名義書換代理人 事務取扱場所 (お問い合わせ先) | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL 0120-094-777 |
| 取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 本店・支店 野村證券株式会社 本店・支店 株式関係のお手続き用紙のご請求は、下記の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 TEL：大阪 0120-684-479、東京 0120-244-479 インターネットホームページ： http://www.tr.mufg.jp |
| 単元未満株式の買増 および買取のご請求に ついて | 1) 所有の単元未満株式を単元株式(100株)としていただける単元未満株式買増制度を実施しています。 ご希望の株主の皆さまは、上記名義書換代理人事務取扱場所および取次所までお問い合わせください。 2) ご所有の単元未満株式を売却する買取請求につきましても、従来どおり上記名義書換代理人事務取扱場所および取次所にて承っております。 |

お問い合わせ先

参天製薬株式会社 コーポレート・コミュニケーショングループ
〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号
TEL 06-6321-7007 FAX 06-6321-8400
Eメール ir@santen.co.jp URL <http://www.santen.co.jp>



この冊子は100%再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。